

夏風邪って、どんな風邪？水いぼはプールに入れる？

なないろこどもクリニック 院長
岡本美穂 先生

夏になると高熱や発疹で受診される子どもたちが多くなります。そして水いぼがあるお子さんのプールへの対応が話題になりますね。

夏風邪の代表といえば 1. 咽頭結膜熱 2. 手足口病 3. ヘルパンギーナ ーでしょうか。

1. 咽頭結膜熱 はその名の通り、のどが赤く腫れ、結膜が充血し、40℃近い高熱が数日続きます。プールを介して流行することがあるのでプール熱とも呼ばれますが、実際ほとんどが集団生活の中での接触により感染が広がります。接触感染には、握手や抱っこなど直接に触れてうつる場合と、ドアノブや遊具など触った所からうつる場合があります。症状が消失した後2日間は出席停止となります。

2. 手足口病 も名前の通り、手のひらや足、口の中に水疱のような発疹ができますが、腕や足全体、お尻にまで発疹ができることもあります。熱はあまり高くなく、元気なことが多いです。口内炎は口の中にできますので、刺激の少ない食事が必要になります。原因となるウイルスには幾つかタイプがあるため、夏と秋に2回かかる場合もあります。保育所などでは、解熱後1日以上経過してからの登園が勧められています。

3. ヘルパンギーナ になると、突然の高熱と喉の奥に潰瘍ができてとても痛く、飲み込むのもつらいようです。不機嫌になり、夜間にうなされてしまうお子さんも多いでしょう。登園に明確な基準はありませんが、解熱して食欲が元に戻ってから登園されると良いでしょう。

いずれもウイルスの感染症なので抗生物質は効果がありません。

最後に、水いぼについてです。毎年、水いぼがあるとプールに入れませんか？ と相談があります。今年5月に日本皮膚科学会などが「プールの水ではうつらないので入って構いません。ただし、タオル、浮輪、ビート板などの共用は避けましょう」と発表しています。接触により感染しますから、水いぼのあるお子さんは発疹が隠れるような長めの水着を着るのもいいのではないのでしょうか。